

平成 年度科学研究費補助金実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 3:4:5:1:3 2. 研究機関名 神戸松蔭女子学院大学
3. 研究種目名 基盤研究(A) 4. 研究期間 平成15年度 ～ 平成18年度
5. 課題番号 1:5:2:0:2:0:0:9
6. 研究課題名 日常的推論の論理と言語形式: 量化表現、条件文、モーダル表現を中心として

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
1:0:1:5:8:8:9:2	アガナグンジ, タカオ 郡司, 隆男	神戸松蔭女子学院大学・文学部	教授

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
7:0:2:6:3:9:9:4	アガナアリタセツコ 有田, 節子	大阪樟蔭女子大学・学芸学部	助教授
2:0:2:1:3:2:3:3	アガナイマニ, イクミ 今仁, 生美	名古屋学院大学・外国語学部	教授
1:0:1:5:4:9:5:7	アガナタクボ, ユキノリ 田窪, 行則	京都大学・大学院文学研究科	教授
0:0:2:7:3:7:1:4	アガナマツイ, ミチナオ 松井, 理直	文学部	助教授
6:0:1:8:1:9:3:9	アガナミトウ, ヒロシ 三藤, 博	大阪大学・大学院言語文化研究科	助教授

9. 研究実績の概要(国立情報学研究所でデータベース化するため、600字～800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。)

本研究は、推論および推論に関わる言語形式の研究を通じて、日常言語における推論がどのような形でなされるのかを考察し、論理形式と日常言語との相関関係を探求することを目的としている。

本年度は、前年度までの研究成果を踏まえ、日本語、英語・ドイツ語などの西欧語、韓国語のコーパスから、用例の採集・分類を引き続きおこなうとともに、日常的推論、量化表現、条件文、モーダル表現に関わる言語現象の理論的な考察を深めていった。

さらに海外共同研究者らとの討議の場として、以下を実施した。

- 7月に分担者の坂原は国際シンポジウム「認知言語学の哲学的基礎」を東京大学で組織するとともに研究発表をおこなった。
- 8月下旬に、海外共同研究者の Kaufmann を京都大学に招いて、モーダル述語の意味論と統語論、および条件文の反事実的解釈、時間の従属節の意味論について討議した。
- 2月下旬に、分担者の今仁は海外共同研究者の Kaufmann の所属する Northwestern 大学を訪問し、1週間程度集中的に討議した。
- 2月下旬に、Sells および韓国側の海外研究協力者を中心として、日本語と韓国語の対照言語学的研究の集中的討議の場を設けた。また、次年度の計画の練り直しをおこなった。
- 分担者の田窪は上記国際シンポジウム「認知言語学の哲学的基礎」で研究発表するとともに、韓国延世大学で開かれた国際認知言語学会、ウイスコンシン大学でひらかれた日本語・韓国言語学会で発表した。

本年度は前年度までに収集した基礎的なデータの整理・分析に基づいて、それを、一般的、普遍的な形の理論としてまとめる作業を継続し、その成果は国際学会での発表、論文などの形をとってあらわれてきている。特に、日本語と他言語の共通点・相違点と言語の普遍性と個別性の問題との関わりについての考察を深めた。

※ 成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4判縦長横書1枚)を添付すること。

10. キーワード

- | | | |
|-------------|-------------|------------|
| (1) 推論 | (2) 日常言語 | (3) 論理形式 |
| (4) 量化表現 | (5) 条件文 | (6) モーダル表現 |
| (7) 国際研究者交流 | (8) アメリカ:韓国 | (裏面に続く) |

11. 研究発表（平成17年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計（15）件

著者名	論文標題		
Takarajima, I., K. Akama, I. Imani, and H. Mabuchi	Design of termination for non-deterministic programs based on the equivalent transformation computation model		
雑誌名	巻・号	発行年	ページ
<i>Journal of Advanced Computational Intelligence and Intelligent Informatics (JACIII)</i>		2006	in press

著者名	論文標題		
Imani, Ikumi	Vision and Four Types of Event		
雑誌名	巻・号	発行年	ページ
<i>English Linguistics</i>	Vol. 23, No. 1	2006	in press

著者名	論文標題		
Takahashi, T., C. Bartneck, Y. Katagiri, and N. Arai	TelMeA - Expressive avatars in asynchronous communications		
雑誌名	巻・号	発行年	ページ
<i>International Journal of Human-Computer Studies</i>	Vol. 62, No. 2	2005	193-209

著者名	論文標題		
坊農 真弓・片桐 恭弘	対面コミュニケーションにおける相互行為的視点—ジェスチャー, 視線, 発話の協調		
雑誌名	巻・号	発行年	ページ
『社会言語科学』	7巻2号	2005	3-13

著者名	論文標題		
Bono, M. and Y. Katagiri	Gazing, pointing and modality expression in conversations		
雑誌名	巻・号	発行年	ページ
<i>2nd Conference of the International Society of Gesture Studies</i>		2005	50-

著者名	論文標題		
Bono, M. and Y. Katagiri	Gestural cues for turn-management in interactions		
雑誌名	巻・号	発行年	ページ
<i>2nd Conference of the International Society of Gesture Studies</i>		2005	265-

〔図書〕 計（3）件

著者名	出版社		
有田 節子	大学書林		
書名	発行年	総ページ数	
『小泉保先生傘寿記念論文集』（上田功・野田尚史編）「どうせ」の意味と既定性	2006	印刷中	

12. 研究成果による工業所有権の出願・取得状況

計（0）件

工業所有権の名称	発明者	権利者	工業所有権の種類、番号	出願年月日	取得年月日

11. 研究発表（平成17年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計（15）件

著者名	論文標題			
Katagiri, Y., M. Bono, and Noriko Suzuki	Conversational Inverse Information for Context-based Retrieval of Personal Experiences			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
<i>Proceedings of the International Workshop on Conversational Informatics</i>		2005	1-6	

著者名	論文標題			
郡司 隆男	日本語の NPI の韻律と意味			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
<i>Theoretical and Applied Linguistics at Kobe Shoin</i>	No. 9	2006	17-30	

著者名	論文標題			
郡司 隆男	言語普遍性と個別性			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
『月刊言語』	34巻 8号	2005	24-31	

著者名	論文標題			
坂原 茂	書評: 西山佑司著『日本語名詞句の意味論と語用論—指示名詞句と非指示名詞句—』			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
『日本語の研究』	1巻2号	2005	98-104	

著者名	論文標題			
坂原 茂	変化述語について			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
『言語・情報・テキスト』	Vol. 12	2005	1-31	

著者名	論文標題			
松井 理直	計算論的関連性理論と命題論理			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
<i>Theoretical and Applied Linguistics at Kobe Shoin</i>	No. 9	2006	57-71	

〔図書〕 計（3）件

著者名	出版社			
坂原茂	白水社			
書名	発行年	総ページ数		
『フランス語学研究的の現在 - 木下教授喜寿記念論文集 -』(木下教授喜寿記念論文集編集委員会編) フランス語と日本語の名詞限定表現 (pp. 15-34)	2005	283		

12. 研究成果による工業所有権の出願・取得状況

計（0）件

工業所有権の名称	発明者	権利者	工業所有権の種類、番号	出願年月日	取得年月日

11. 研究発表（平成17年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計（15）件

著者名	論文標題			
松井 理直	計算論的関連性理論に基づく条件文解釈の過程			
雑誌名		巻・号	発行年	ページ
『日本認知科学会第22回大会発表論文集』			2005	386-387

著者名	論文標題			
松井 理直	計算論的関連性理論に基づく推論の計算			
雑誌名		巻・号	発行年	ページ
『日本心理学会第69回発表論文集』			2005	911-911

著者名	論文標題			
三藤 博	日本語名詞句の定 / 不定の意味論について			
雑誌名		巻・号	発行年	ページ
『自然言語への理論的アプローチ - 意味編 -』（言語文化共同研究プロジェクト2005）			2005	35-42

著者名	論文標題			
雑誌名		巻・号	発行年	ページ

著者名	論文標題			
雑誌名		巻・号	発行年	ページ

著者名	論文標題			
雑誌名		巻・号	発行年	ページ

〔図書〕 計（3）件

著者名	出版社			
三藤 博	朝日出版社			
書名			発行年	総ページ数
『シュンボシオン—高岡幸一教授退職記念論文集—』（高岡幸一教授退職記念論文集編集委員会編）ラテン語の時の副詞節における法・時制・アスペクト形式			2006	印刷中

12. 研究成果による工業所有権の出願・取得状況

計（0）件

工業所有権の名称	発明者	権利者	工業所有権の種類、番号	出願年月日	取得年月日